

2月下旬幣投稿で、もう一度人生を楽しみたいとおめでたい気持ちで、新しい生活を始める報告をしましたが、その気になって過ごしていると、次々に新しいことに出会う2か月が過ぎましたので、報告してみたいと思います。

初心を忘れない気持ちでの〈初心俳句〉を始めて、今年は9年目ですが、入門通信講座を受けた後、年6回の添削指導コースを受けており、首記の俳句は、久しぶりの先週に、指導を求めて送った3句の1つです。作品の背景として書いたのは以下の通りです。

・・・公園の山道で立ち止まり、長袖を巻くっていると前の手すりへ、シジュウカラが止まり、こちらを見て瞬間に私が掲げた手の人差し指へ止まり、すぐに一旦手摺へ戻り、こちらを見つめた後、又、指へ来て止まるということが起きた。

これは、私の人生で初めての経験ですので、うれしく感動しました。思えば、最近公園の中で、猫やカラスや池の鯉や、更には、鳩にも、餌をあげている来場者を見ているので、森のシジュウカラも私から餌が貰えると思ったのだろうとも考えられますが、自分としては、小鳥に親しくしてもらったと感じて、おめでたく喜んだ次第です。

上記は3月の出来事でしたが、4月には、公園広場で自動販売コーヒーを飲む前の野外テーブルで、テーブルを背に座って手を広げる運動をして手をすぼめた瞬間に、手の前に、鳩がこちらを向きながら羽をばたばたさせながらいて、腕に止まるかのような気配を見せるということが、これも、始めてありました。この時は、シジュウカラと違って爪を警戒して自分が手を下げると近くの地面へ降りて、何かをついばみ回っていました。

2句目は、「もう一度 人生歩く 竹の秋」で、背景は、2月にご報告したように、3度の手術入院からの退院で身体の大掃除の後のような清々しさを感じ、もう一度人生を楽しみたいというものですが、今回、生きるのを、敢えて〈歩く〉としたのは、この2か月、大腸一部切り取り手術で、事前に可能性予告を聞かなかった急性肺炎と酸素吸引力不足による酸欠と、それに伴い、病院の勧めで、退院後に在宅訪問医療を受けることになったことと関係しており、

この酸欠の原因については、複数の可能性があるが今では承知しているのですが、西洋医学中心の医者からは、比較的酸欠発生程度が軽い私が酸欠の有無を知るための携帯用メータでの数字や体感で確認できる、改善のための対処療法が未だ示されず、家の台所

に酸素吸引機を置いてあることと、外出時必要な場合使うべく、酸素が入ったタンクを入れたリュックを置いてあるのですが、これに対して、永年腹式呼吸を実践した結果、腸がそれなりに出来ていたと思っている私としては、手術で 16 センチ切り取って短くなった腸を鍛え直してみようと思い、毎日散歩して、腹式呼吸を意識した歩行を続けているので、改めて動作としての<歩き>に関心があるためです。

「竹の秋」は、春の季語ですが、勉強不足の私は、それを、最近楽しんでいるスマホのラジオ放送で、森を散歩中に児童電話科学相談を聞いている時に、小学生が、「竹の葉はいつ落ちるのですか？」と質問し、先生が、「木の葉の多くは秋に落ちるよね。でも、竹は、タケノコが育つ時はエネルギーを多く使って疲れるので、葉の方へはエネルギーを使わないので、葉の色が茶色になって春に落ちます。」と説明したので、あとで、AIで調べて確認した時に、春の季語に「竹の秋」があることを知ったので、早速、人生の秋に、春を実感しているという感じで、使ってみた次第です。

3. 3句目は、「サングラス かけて見えたり 春の富士」で、

背景は、見る時間や季節、太陽光の強弱や角度、富士山眺望場所と富士山の間に或る丹沢山脈の山の霧などにもより、雲がない時は見えるはずの富士が見えない時に、森の中では上に上げているサングラスを下ろして見ると、富士山が浮かび出ることがあるのを、2年前に初体験していたのですが、今年の4月も後半になり4日続けてこれを確認したものです。いまは、雲がなく富士が見えない時は試して、楽しんでいるものです。

因みに、今年の森林公園散歩富士見場所での 月別の(眺望回数/富士が見えた回数)は、

1月(28/11) 2月(6/3) 3月(24/2) 4月(19/4) が現状ですが、

昨年は以下のような結果で、見えると喜びの声が聞こえる富士見場所です。

2025年 1月(26/11) 2月(27/15) 3月(26/1) 4月(24/5) 5月(21/0)

6月(16/1) 7月(28/8) 8月(28/3) 9月(29/10) 10月(27/4)

11月(28/14) 12月(17/5)

記入：ジョイラ 12590 の日

以上。